

## 症例報告

# 血管内治療後の再狭窄に対し、シロスタゾール (プレタール)の内服が著効した症例

Suzaki Noriyuki  
須崎 法幸  
Oeda Motoki  
大枝 基樹

Takahashi Tatsuo  
高橋 立夫  
Fukuoka Toshiki  
福岡 俊樹

Tsurumi Arihito  
鶴見 有史  
Tamari Yosuke  
玉利 洋介\*

Tsugane Shinichiro  
津金慎一郎

## はじめに

脳底動脈本幹狭窄による症候性脳梗塞に対し、percutaneous transluminal angioplastyを行い血管の拡張を得られた症例が、数年後に再度高度狭窄を来した。この症例に対し、シロスタゾール(プレタール)を使用することにより、再度血管拡張所見を認め、以降脳梗塞の再発も認めていない。

## 症例提示

症例：54歳，男性。

既往歴・家族歴：高血圧(未治療)。

現病歴：2005年10月にめまい，ふらつき，口のまわりのしびれを自覚。その後，全身の脱力にて友人に支えられ当院受診。

治療経過：頭部CT，MRIにて脳梗塞を疑った(図1)。脳血管撮影を行い，脳底動脈本幹の狭窄を認め(図2)，薬物治療を開始した。5日後にpercutaneous transluminal angioplastyを行った(図3)。術後，アスピリンを2年内服していたが，その後受診歴なく怠業していた。2008年に再度症候性脳梗塞を起こし(図4)，当院入院となる。薬物治療を開始した。MRAにて同部位に高度な狭窄を認め(図5)，入院当初は点滴による治療を行い，アスピリンを再開するも画像上変化を認めず，シロスタゾールに変更した。その後外来にてMRAをフォローし，狭窄の改善を認めた。シロスタゾール内

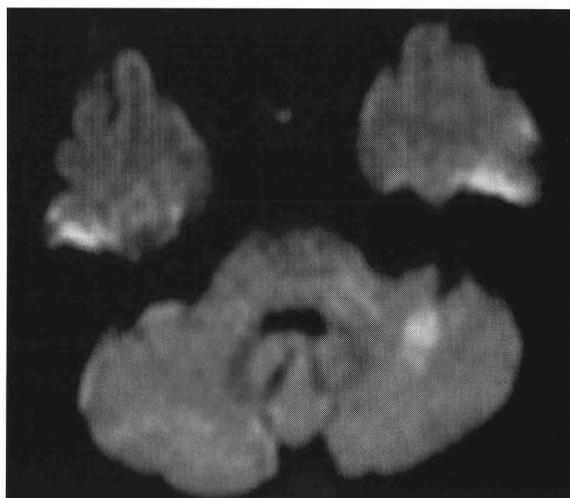


図1 頭部MRI  
小脳梗塞を認めた。

服1年後にはほぼ狭窄は消失した(図6)。現在も副作用および脳梗塞を認めず，内服続行中である。

## 考 察

脳梗塞に対する治療の進歩は近年著しいが，なかでも血管内治療におけるカテーテルをはじめとする医療機器や薬物治療の分野は日進月歩である。こうした医学の進歩を享受し，十分な治療効果が得られる症例がある一方で，薬物抵抗性病変や血管内治療後に再狭窄を来す困難な病変にも，臨床の現場ではまれならず遭遇する。椎骨脳底動脈狭窄による症候性脳梗塞は，脳幹への血流障害は意識障害など高度な後遺症を来すため，近年血管内治療が試みられるようになりつつある<sup>1,2)</sup>。

\*国立病院機構名古屋医療センター脳神経外科

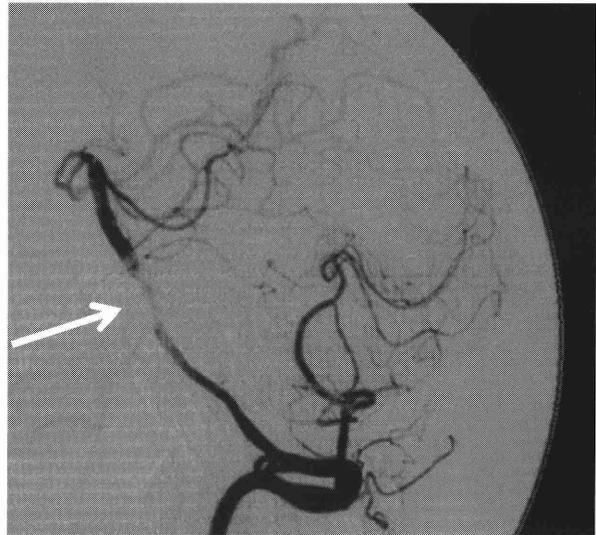
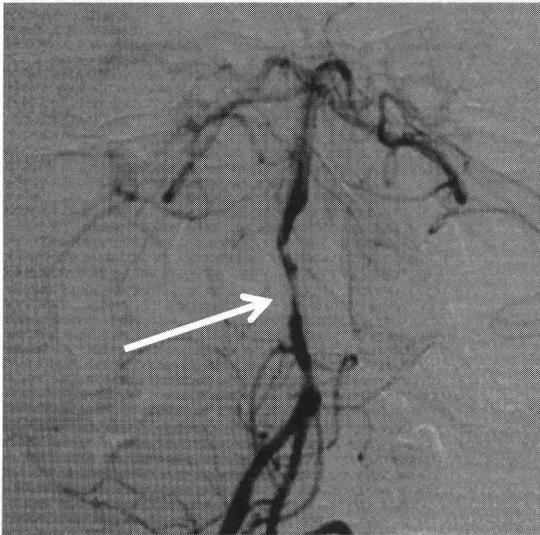


図2 脳血管撮影  
脳底動脈本幹に狭窄を認めた。



図3 Percutaneous transluminal angioplasty後の  
脳血管撮影  
脳底動脈狭窄は改善した。

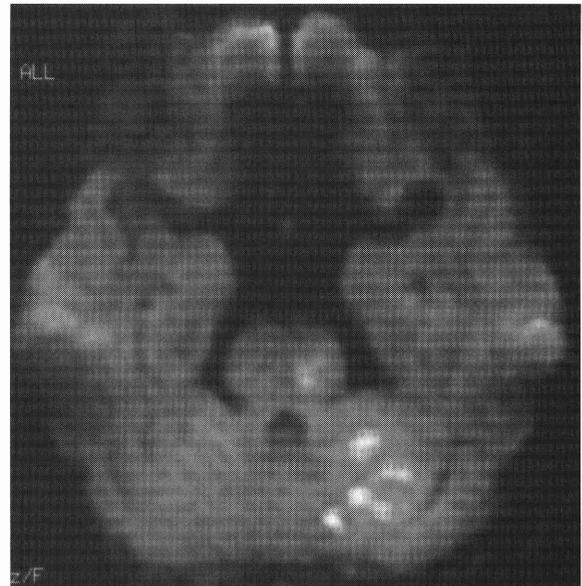


図4 当院入院時MRI  
小脳、脳幹に脳梗塞再発を認めた。

従来、われわれは頭蓋内動脈狭窄に対しては、可能な症例については血管内治療を第一選択とし、その後薬物治療を追加してきた。しかし、術後に再狭窄を来す例が一定の割合で存在する。再狭窄に対しては、再度の血管内治療が可能であれば治療を行うことになっているが、再治療困難例あるいは薬物治療を選択された症例においては、抗血小板凝集阻害薬を使用する機会が多い。血管内治療後の再狭窄については、絶対数の増加とともに報告例も増加しているが<sup>3)</sup>、患者の予後は改善の余地があるため、薬物治療や再度の血管形成術、またバイパス術などの外科治療が試みられているが、治療は容易ではないのが実情と考えられる。われ

われもこうした症例を多く経験したが、最近ではシロスタゾールを追加することで再狭窄病変が軽快する例をたびたび経験する。シロスタゾールは近年、本邦でも使用が増加の一途をたどっている薬剤である。われわれもシロスタゾールを多数例に使用し、シロスタゾールについて数々の特性や知見を得てきた<sup>4)</sup>が、今後もさらにこうした知見の積み重ねにより、治療成績のさらなる向上が期待される。

今回、血管拡張術後数年で再狭窄を来し、アスピリ



図5 当院入院時MRA  
脳底動脈本幹に再狭窄を認めた。



図6 シロスタゾール内服1年後のMRA  
シロスタゾール内服後、狭窄は改善した。

ン抵抗性のため、シロスタゾールを使用したところ血管の拡張に至った症例を経験した。

## おわりに

血管内治療後の再狭窄に対しシロスタゾールが有効であった症例を報告した。

## 文 献

1) 波多野武人, 塚原徹也, 荻野英治ほか: 症候性頭蓋内

椎骨脳底動脈狭窄に対する血管内治療. 脳卒中の外科 2006; 34: 178-184.

2) 須崎法幸, 高橋立夫, 星野彰宏ほか: 椎骨動脈閉塞に対し血栓溶解療法と血管形成術を用いて救命し得た1例. 日本神経救急学会雑誌 2003; 16: 104-107.

3) 津本智幸, 越道慎一郎, 照井慶太ほか: 経皮的脳血管拡張術後に再狭窄を呈した症候性中大脳動脈狭窄に対してシロスタゾールの投与が有効であった1例. Prog Med 2011; 31: 311-314.

4) 須崎法幸, 高橋立夫, 津金慎一郎ほか: 頭蓋内動脈狭窄に対するシロスタゾールの使用経験. Prog Med 2009; 29: 2803-2805.